

## 全体討論会 「デジタル化全体に関する討論及び情報交換会」

指導講師 横山 正人氏、岡 裕大 氏

司会

「それでは続きまして、全体討論会の時間でございます。

これからは自由な発言時間、フリートーキングのお時間です。これまでのすべての基調講演、講演、報告に対しましての質問や関連するご意見、例えばこのフォーラムの在り方などお気づきの点などがあるかと思いますが、是非お聞かせください。

それではその場で挙手をお願いいたします。なお、よろしければ発言の前に所属名とお名前をお願いいたします。」

質問者 1

「福岡県文化団体連合会の E と申します。私たちの団体について考える中で、今の代表のアンケート結果を聞きながら少し考えさせられるところもありました。

確かに連絡事務で、メールとか一部 LINE とか使ってメンバー同士とか、私どもの団体に参加している諸団体、これは各地の文化協会ということになりますが、そういう所との連絡にはデジタルをよく使っております。例えて言うなら電話、封書の代わりとしてはよく使っておりますが、それ以上の使い道というところを考えると、我々自分たちの業務のどの部分をデジタル化して、どのような素晴らしい結果をもたらせるのだろうかというところが情けないことに、自分たちの業務をデジタル化することについての「姿」、「こういう風にしたらいいんだ」という姿がなかなか見つからない、というところがあります。自分たちの日常業務のどの部分をどのようにデジタル化していくんだろうという、分かりやすく示してくれているような例とか、具体的な提示とか、そういったものがあると踏み込む第一歩、きっかけになるのではないかという風に考えまして、発言させていただきました。何かありましたらよろしくをお願いいたします。」

司会「はい、ありがとうございました。それでは横山様か岡様、ご回答、アドバイスなにかございましたらお願いいたします。」

横山氏

「横山です。今の回答になるかどうかわかりませんが、事務連絡的なものにメールをよく使ったりしますね。それはどちらかという、アンケートを見ると LINE をお使いの方が結構多かったようですが、メールを考えてみますと恐らく一方通行的な情報の伝達、当然その返信もあるでしょうが、どちらかという一方通行的な情報の伝達ということが主になっているのではないかな、と思います。」

そこで、大事なことは何かと言いますと、例えばボランティアの仲間同士でも思いついたことや、考えたりしたことがお互いに日々言えるような環境を作っていくということが非常に大事ではないかな、と私はいつも思っています。

これはどんな組織でもそうです。私はあちこちの自治体のコンサルもさせていただいていますが、自治体という一つの組織をとっても、一人ひとり何かやりたいといういろんな想いはあると思います。ところがそういったものが業務の中ですと、一つの会議だと意見交換できるかもしれませんが、日頃、ポッと思った事が言いにくいような環境って意外とあるんじゃないかと思えます。

私も全国にいろんな仲間がいますが、そういった人たちと日頃やっていることは何かというと、まさに SNS を使っています。そういった時、LINE とかはあまり使いません。

私今、長崎県庁にも籍を置いています。その中では LINE でもラインワークスといひまして、企業なんかでよく使う LINE の一つの方法ですが、それは思ったことをぼんぼんお互いに言い合ったり、それからちょっとこういう情報、例えば“このボランティアごげんことやとうよ”とか、そういう情報をポッと投げてあげたり、という風ないつも情報を共有していくような仕組みは、非常に大事じゃないかな、と思っています。

そういった意味では LINE なんかも一方的な事務連絡だけじゃなくて、もっと皆がより向上していくような情報をお互い言い合ってそれを共有できるように、そんな感じに使われてくるということがこれから非常に求められている、そういう時代になってきたのかな、とそんな風に思っています。」

司会「はい、ありがとうございました。岡様なにかございますか。」

岡氏

「私からは補足になりますが、やはりそのデジタルの一番いいところというかメリットは、離れている相手でもコミュニケーションをとれるということかな、と思っています。奇しくもコロナ禍になって、急に他人と距離を空けなさいということが言われる中で、デジタルを使えば十分ではないですけども、リモート会議であったり、リモートワークというところで多少なりともその足りない分を補うことができると思います。

県庁内部のお話をしますと、コロナになって盛んにリモートワークしなさい、という風に言われています。

システム上は、今、県庁の私のデスクにあるパソコンを遠隔で操作できるように、もう一台小型の PC が配布されていて、それを持ち帰って家からリモートで自分のデスクにあるパソコンを操作するみたいな仕組みを取り入れています。

“今日は在宅します”ということで仕事が家で出来るんです。

そうすると、普段だったら内線が頻繁にかかってきたりとか、周りから“岡さんちょっといいですか”って言われたり、横やりが沢山入ってなかなか自分の仕事に集中できない場

面がありますが、家にいると、私は子供もいますが、一応自室があるので閉じこもってれば誰にも邪魔されずに一日仕事に没頭出来ます。“ああ良かったな”と思います。

しかし、ふと気づくと、県庁執務室での内線であったり、“ちょっと岡さん”って呼ばれたことで成り立っていた仕事も多分あったわけで、そこがぴしゃっと断絶されてしまって、たぶん出来なくなった仕事も少しはあるだろうと気付きました。

また自宅から県庁執務室の隣の方に尋ねるとか、どこか別の部署に尋ねたいと思ったときに手段がないわけですね。したがって、やはりコミュニケーションツールって大事だな、という話になって行きます。

県庁では今、先んじてそういうリモートのシステムも入れるべきだとして、第二弾としてコミュニケーションツールを入れようとしています。

パソコンで隣の席同士で Web 会議が出来るようにしたり、“ちょっと今いいですか”と少しでもお話し出来るような LINE みたいなシステムを入れようとしています。

そういうコミュニケーションツールって非常に大事だな、と思っています。

ちょっとした隙間時間でもそういう風にコミュニケーションがとれるように、何か物事を進んで出来るような、そういったところからまずは取り入れてみたりとか、今、世の中でどういう風なコミュニケーションツールがあるのだろう、みたいなことを調べてみるとかですね、そういったところを少しずつ研究していったらどうかな、というふうに思いました。以上です。」

司会者

「はい、ありがとうございます。横山様も岡様も基本はコミュニケーションという部分にあったような気がいたします。一方向の伝達ではなくて考えを出し合うような環境を作る、共有の仕組み、コミュニケーションツールとして考えるというご意見をいただきました。

その他にただいまのことにに関して、“こういう風にしたらいいですよ”という団体の方いらっしゃいましたら、はい、ありがとうございます。」

参加者 1

「こんにちは、久留米の観光ボランティアガイドの会の会長をしております I と申します。現在 78 歳ですが現役のバスガイドです。久留米市の観光を盛り上げようと思って、ちょうどコロナになりました頃、前会長が解散したいと言い出しましたので、じゃあここは私の出番かなと思って手を上げました。しかし私はパソコンが出来ません。その時スマホもなく、ガラケーしか持っていませんでした。だから本当はどうしようかと思ったんですが、皆が“カバーしてあげる”と言ったので、“ああカバーしてくれるなら良いわい”と引き受けました。

そうしたら、“自分が事務局やります”と、バリバリの若い人が手を挙げてくれて、ちょう

ど2年になります。今スマホを持っています。その後3か月ぐらいしてから、“会長、LINEをしましょう”と提案してくれました。

“LINE ちゃんねって（笑）”。本当に何にも知らなかったんです、私は。スマホの使い方を、彼から、ああしろ、こうしろってずっと教えてくれて、今ではバリバリの上質な使い手となりました。

スマホが“何に役立っているか”とといいますと、ちょうど3日の土曜日が久留米大学の学生さんを私たちが案内するフィールドワークという行事がありました。久留米城跡と梅林寺、そしてJR久留米駅と水天宮と、学生さんが来るんですが、その時スマホで、“今日の水天宮は七五三の人が多いよ”とか、“梅林寺は駐車場がないよ”とか、それをメンバー内で連絡してくれるんです。

最も助かったのはさっきおっしゃいましたね、連絡してもらったことが一番でした。

私の会長職は来年の3月までですが、私のところに、道の駅の今日の当番は誰々だとか、気が付いた人が写真を撮ってきて、今二千年橋の下にコスモスがきれいに咲いているからぜひ見に行ってくださいと、写真まで送ってきます。

私、初めは写真の送り方も知らなかったのですが、だんだん上手になってきて、私も道の駅の風景を撮って送れるようになりました。

そういう問題はいろいろありましたけれども、デジタル化とは凄いことだと思います。私も3月で会長職が終わるので、次の会長さんは若い人にやらしてもらおうと思っています。最初、スマホは怖かったですけど、今はスマホを有効に利用して、急に欠席の人が出た時には、“誰だれが当番してくれる”っていう連絡が来るんです。それはほんとに助かっています。

今日はどんな話があるか、と楽しみに聞きに来ました。

私たちの小さいことだけれど、デジタル化した一部分をお話しました。どうも失礼しました。」

司会

「はい、実践なさっていらっしゃる事例報告をいただきました。ありがとうございました。電話や封書ではなくてリアルタイムで状況を連絡するということですね。フィールドワークに使っていらっしゃるのと伺いました。あとは仕事以外で、綺麗なお花の写真を撮って送り合っている、そういうところでまたコミュニケーションを形成されているというお話もあったかと思います。ありがとうございます。

それでは何かほかにも、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。今日は貴重な情報交換の場でもございますので、なんでもお尋ねくださいませ。」

## 参加者 2

「先ほども質問させていただきました、糸島市文化課文化振興係の大園と申します。意見とご相談ということで、ご質問させていただきます。

まず、文化連合会様、先ほどのご質問で業務においてデジタル化とは、デジタル化出来ることは何かという問題提起だったと思いますが、こちらでは実践とまでは行きませんが、したいと思っていることがいろいろあります、というお話からさせていただきたいと思います。

簡単に言いますと私どもが持っている美術館の収蔵品、出来れば展示をオンラインで公開、いつでもだれでも見られるようにしたい、という夢・目標があります。

それからコンサートなど、いろんなコンテンツを配信したいという夢もありますし、美術館についても、VRで絵を見せるだけではなく、例えば私なんかの素人目線でもいいし学芸員さんが捕まればもっといいですが、配信でギャラリートークなどが出来ればすごく良いと思っています。

デジタル化でそういう事をしたいという夢を常に持っておりますが、なかなか先立つもの、技術などいろいろ障害があります。

糸島市は文化協会と一緒に活動をしていまして、その皆さんは高齢化という課題を抱えておられます。そこで多くの市民の皆さんに知ってもらうためには、オンラインで発信出来ればいいなと思っておりますが、その会員の皆さんとその夢を共有するにはどうしたらいいかなと難しさを感じ、途方に暮れております。

今日の基調講演や、講演でお話を伺いましたが、やはり一人でも多くの仲間の皆さんに、どうやれば一緒にそう思ってもらい、おんなじ夢を見られるか、ということのヒントが一つでも欲しい、と思って質問させていただきました。」

司会「はい、それではよろしく願いいたします。」

## 横山氏

「どう説明したらいいのかわかりませんが（笑）。

そういう事をやっていこうという時に、やはり“あれもやりたい、これもやりたい”とかいろいろあると思いますが、まず何か一つ簡便なことでいいので“これ一回、ちょっとみんなで作らねえ！”という、具体的なテーマなり作業なり、そういったものを不特定多数の人に投げかけるということって非常に大事な、と思います。

以前、私、鹿児島県のあるところで郷土のお祭りに関りました。お祭りというのはそこに見物に来ている方はそれを体感できますが、お年をとって特に福祉施設等に入っておられる方とか、地域で長年、そういう行事を“昔は見てたんだけど、今見れないね”とかそういう思いを持たれている方もいらっしゃると思います。そこで、お祭りのメインのところを、実は映像をリアル配信しました、そういう事をやったことがあります。

その時に感じたことは、やはり一人では出来ないわけです。いろいろな多くの方がいろんなところに協力していただき、例えばちょっとカメラで映していただいて、それを私どものほうで統合して一つの作品として流したということがあります。その時に大事なことは、それに協力してくれる人たちですね。そういう人がいないと、こういうことはやりたくても実現出来ません。

実は、先ほどから出ていましたが、日頃からそこが主催するいろんな情報を SNS なんかで常に提供していることが大事で、そこにアプローチする機会もやはり増えるわけで、いろんな人が見ているわけですね。そうすると“今度こういう企画をするんですけど”と言っているような協力を仰いだりすると、その時もそうだったんですが、結構な人が集まっていただき実現できた例もあります。日頃からそういう風にその情報を見ようという仲間を増やしていく、ということが大事なのかな、と思います。

さき程、私、自分のところで雇用している人たちを、“ハローワークではなくてインスタグラムで募集した”、という話をしましたが、それも一つの例なんですね。なんでそういう事が出来るかという、うちのインスタを常に見ているファンが非常に増えてきたということです。

ボランティア団体とか私どもの社団法人にしてもそうですが、いかに日頃から広報を継続的に流しているか、そこへのアプローチをしてくれる人たちを増やしているかで、それは何か必要な時にいろいろな仲間が集まってくれるきっかけになります。そういう手段として SNS を使うということも積極的にやっていくと意外と出来るのかなと思います。

最初に言ったように、沢山お望はあると思いますが、やはり具体的な、まずは“これ二年ぐらいかけて実現しよう”とか、そういう絞り込みも非常に大事かなと思います。まずそれに対して興味を持つ人に集まってもらうところから入れば、だんだんと輪が広がってくるんじゃないかな、とそんな思いがしているところです。」

司会「はい、ありがとうございます。岡様からは何かございますか？」

岡氏

「やはり関係する皆さんと合意を形成していく、というプロセスは非常に大事だなと思います。その為にはたたき台というか、叩かれ台という“こういう絵を考えています”というのを皆さんと共有して、それに意見をもらって、皆さんと確かにこの道を進んでいくんだというのを確認しあう作業があるのかなと思います。それをスピードアップさせるのがデジタルツールみたいなもので、コミュニケーションをとっていくことだろうなという風に思います。

やはり必要なことは、ビジョンの共有みたいなことと、それからキーマンです。それを進めていくキーパーソンがやはりいるのかなと思います。

いろいろな地域のイベントの成功事例を見ていると、やはりそのキーパーソン、この人が進めていたからこそ出来たんだ、という事例が結構あると思っています。そういう方を見つけるとか、あるいは今横山先生もなってらっしゃいますけれども、総務省のアドバイザー、地域情報化アドバイザーとか、そういったアドバイスをしてくださる、かなりいろんな目の肥えてらっしゃる先生方を派遣してくれる制度とかもありますのでそういったものも活用しながら、ほかの事例、全国の事例も照らし合わせながらやっていけばうまくやっていけるんじゃないかと思いました。以上です。」

司会

「はい、ありがとうございました。ご質問のそもそもは文化協会と一緒に活動していきたい中で、どうしたら共有できるのかというところからいろんな話に広がって沢山のアドバイスいただいたかと思います。具体的なテーマで一緒に出来る人たちを集めるってこと、それには SNS の協力、それからキーパーソン、そしてアドバイザーの活用というお話が出たかと思いますが、糸島市では SNS の発信はどのようにされていますか。」

参加者 2

「そうですね。具体的に言うと今のところイベントの時、広報の補助ツールとしてなのかなと、お話を聞きながら感じていましたので、これはもっとやりようがあるのではないかと思います。」

今のお話で、常々発信することで、一緒にやる文化協会の会員さん達に、日頃からコミュニケーションを密にとってファンとなっていていただく、そして大きな事をいきなりじゃなくて具体的な何か一つから始めるというポイントをいただきましたので、途方に暮れた状態から少し霧が晴れたような感じですか。ほんとにありがとうございます。」

司会 「はい、ありがとうございました。」

横山氏

「さっき県の岡さんのほうからいただきました、実は今、国の制度で私もその一人ですが、総務省の地域情報化アドバイザーという役割をしております。

これは国に申請をしていただきますと私を無料で使うことが出来ます (笑)。

地域アドバイザーとして呼んでいただきますと会社から行くこととなり、当然私は仕事でするので旅費もいらない謝礼もいらないということになります。私はどこでも全国飛び回りますので、そういうお手伝いなんかもさせていただくことは可能です。」

司会

「ありがとうございます。皆様とてもお得な情報を得られたかと思しますので、是非ご活用を頂けたらもっと活動が広がるのではないのでしょうか。それでは他に何かご質問やご意見ございませんか？」

ではわたくし司会の立場で、一つお尋ねしたいことがあります。それは、デジタル関係は、横文字がすごく多くてその理解に苦しむ、すごく時間がかかるような気がします。その辺を何か日本語に変換するとか、何か良い手立てはあるのでしょうか。」

横山氏

「私もあちこちで講演をしますが、出来るだけ、そういう言葉を発信しないようにと心掛けております。

今の時代、どうしても横文字を使わざるを得ない機会というのが多くて、と言いながら私自身も、いろんな有名な方の講演などを聞くわけですが、その度に講演会場にパソコンを持って行って、“今の言葉わからん” といっって調べたりすることもよくあります。

日本語に直訳すると本当にもっと通じなくなりますので、私も出来るだけ違う言葉で話したいことを伝えるしかないのかな、と思っているところです。

この世界というのはカタカナがほとんどですので、私自身も苦勞している一人だと思ってください（笑）。」

司会「はい、覚えるしかありませんね、皆さん（笑）、頑張って覚えましょう。

ほかに何かございませんか？ はい、ありがとうございます、ではお願いします。」

参加者 3

「春日市の奴国の丘歴史資料館の S です。今の横文字の話ですけれども、私もなかなかついていけないんですが、このデジタル化っていう、この言葉が出てきた背景みたいなものがもしあれば、お伺いします。

デジタルってアナログに対して、とっていてコンピューターとか PC とかタブレットとかそれはもう最初から私も使っていますが、最近のこのデジタル化はもっと違う意味で使われているように思います。

情報・インフォメーションとか、そういうような意味があって“なんでこれがデジタルなの” という、一体そのスタートはどうなっているのか、もし聞けたら参考になります。

よろしくお願いします。」

横山氏

「実は私も同じような疑問を持っているんですね。デジタル化という、デジタルという言葉とはそれこそパソコンが始まる前から使っていたわけです。

なんで今更っていう感じなんです。

例えば、最近の流れを見ても、よく似た言葉で IT という言葉が、“IT 企業に勤めています”とかよく使われていますね。

それからしばらく経つと、今度は ICT という I と T の間にコミュニケーションの C が入りました。これもしばらく使っていましたが、最近は IT や ICT よりももっともって“デジタル”という言葉を使いだしました。

その経緯のところは僕も疑問に思うぐらいで、正確に答えられませんが、国の情報化政策の中で、その時その時に、今まで使っていた言葉と違う言葉で表すことによって、“次の世代の新しい時代を作っていくんだ”という意気込みが感じられます。

最近、ICT とか、IT なんか、省庁によって使い方が違っております。

経済産業省はいまだに IT が多いですが、総務省は ICT という言葉が多かったりします。

この度はデジタル庁が出来て、最近はデジタルという言葉に統一していきそうな感じがありますが、そういう言葉に惑わされないことが一番大事かなと思っています。

デジタル化っていうのは純粹に考えると、今まで紙ベースでやっていたアナログ的なものを、ゼロとイチの世界に置き換えてコンピューターでいろいろな使い方が出来るようにしていくことです。カメラでもそうです。フィルムを入れて写真を撮っていたのがゼロとイチの世界に画像を変えることによって、そのあと写真はいろんな形で使えるようになりました。音楽でもそうです。レコードだったのが CD になった。

これはもうまさにデジタル化したわけです。

そのあとに何が来るかというのが、まさにこの DX になってきます。

単なるデジタル化をしていくというよりも、それを使うベース自身も、もう一度考え直して、我々人間がよりよく生きていけるようなそういう社会を作っていきましょう、となります。だから DX のところでも私はいつも言うんですが、D よりも X が大事なんですよ、とよく言います。D というのはあくまで道具に過ぎません。

デジタルという道具を使って何を本当は変えたいのか、今なんとなく昔からやっている方法でズーっとやっていると、“ちょっとこういう風に切り替えてやり方変えたらもっと上手くいくのにな”という仕組みって世の中にいっぱいあることに気付きます。

それを諦めないで、根本的に考え直してみることが大事ですね。組織と組織の繋がりでもそうだし、組織そのものでもそうです。

そういったことがやっぱり大事なんじゃないかと、だからそういう意味ではデジタル化というよりも、私なんかは DX の X を大事にした社会をこれからどう作っていくか、というのが大事だな、とそんな風に思っているところです。

答えにはなりませんけれども、そんな風に思っております。」

司会「横山様ありがとうございました。岡様お願いいたします」

岡氏

「あと補足をしますと、やはりこのコロナ禍っていうのもあったと思いますね。コロナになった時に世界と比べて、日本のデジタル化は遅れているということはかなり政府としても痛感した、ということをいろんな白書だったり、報告書を見ますと書いてあります。“世界に追い付け追い越せ”ではないですが、やはりデジタル化ということは国民の生命財産を守るためにも必要だし、この少子高齢化社会の中で必要になってくることで、何かやはり旗をあげて進めていこうと、これまで IT 化とか情報化とか言ってきたものを、デジタル化、あるいは DX という新しい言葉に置き換えて、一気に進めていきましょう、ということのメッセージだと思います。」

司会「はい、ありがとうございました。それでは他にございませんでしょうか。それでは以上で質疑応答の時間を終了致します。ご質問ご回答ありがとうございました。」